

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：平成 31年 1月 19日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」新越谷校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		カーテンで視野が散漫にならないように工夫している。	お子様の状況を見て、スペースの確保をする。
	②	職員の配置数は適切である	○		毎週シフトを決め、固定にならないようにしている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		場所を確保し、動きやすいように工夫している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		各指導スペースを配慮し確保している。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		毎週ミーティングを行い、PDCA サイクルを行っている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを実施し、情報共有の場を設けている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		発達支援研究所と連携し、業務にあたっている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事例検討会を実施し、研修を行っている。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントを活用し、個別支援計画を作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールを活用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに基づき、支援内容を設定している。	

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画の確認を行い、日々支援にあたっている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングを行い、チームで行っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		次の段階に成長しているか、日々確認を行っている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	○		月に1度小集団を行い、個別・集団で判断し、計画を作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前回の内容を含め確認を行う。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	○	次の日に確認を行い、次の支援に活かしている。	時間の使い方を大切に、できるだけ当日に話ができるようにする。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		当日に支援の検証・改善を行い、記録をとっている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月おきに、モニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理者が参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		発達支援研究所と連携して支援を行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	医療的ケアに関して、情報提供を求めている。	不登校の生徒が通うようになっているので、学校・地域との連携を図る。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	該当なし。	該当なし。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	該当なし。	該当なし。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	該当なし。	該当なし。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		情報を提供して下さる場合、研修や助言を頂いている。	連絡を密にとり、親交を深めていきたい。

	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	機会がなく、参加していない。	提供して頂く場合、活動をしたい。
	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		機会があれば、今後参加していく。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		支援後必ず、フィードバックを行い、共通理解を図る。	
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		ペアレントトレーニングの勉強をして、今後機会を設けたい。
保護者への説明責任等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に、どれだけの料金がかかるか、詳しく説明を行っている。	
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインに沿った支援計画をたて、同意を頂いている。	
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		何か変化はないか日々保護者様に確認を行い、助言や支援を行っている。	
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今後も計画を継続していきたい。	保護者会の実施を求めるが、なかなか時間が合わないことがある。今後も行っていきたい。
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		毎回送り迎えの際、管理者が顔を出し、相談や悩みがないか、確認を行っている。	
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月玄関にスケジュールを張り、保護者様に見て頂くようにしている。	
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵のかかる場所にしまう事を徹底している。	
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		勉強を日々行い、対応に関して気を付けている。	
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	開催の場合、参加していきたい。	機会があれば参加していきたい。
	非常時等の	㉝	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		毎月、防災訓練を行っている。
㉞		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		訓練の時間を設け、非常事態に備えている。	

対応	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		てんかんが出た場合、どのような対応が必要か、保護者様に確認をしている。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食事の提供を行っていない為、医師の指示をもらっていない。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		小さな事でも「ヒヤリハット」と考え行動していくことを、研修を通して行っている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止のために研修を行い、未然に塞げるように努力をしている。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		該当者なし。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：平成 31年 1月 16日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」新越谷校 保護者等数（児童数） 7 回収数 3 割合 42 %

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	2	1			もう少し広いほうがいいのではないかと。	お子様の様子に合わせて、場所を決めています。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	3					
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3					
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	2	1			玄関らしい玄関ではない。	お子様の目を引くような飾りをつけたりして、児童発達支援の場所を示しています。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	3					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	3					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	3					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか		1		2		飽きがでないように、毎回の支援の振替を大切にする。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1		1	1		
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	3					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	3					
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか			1	2		指導員・管理者含め勉強し、行えるようにする。

	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	3					
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	2		1			
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			2	1		保護者会を実施し、連携がとれるようにしていく。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	3					
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	3					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか				3	ホームページを見ていないのでわからない。	ホームページがあることを伝えていき、情報を共有できるように努めます。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	2			1		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	2			1		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか				3		行っているので、実際の活動内容を報告していく。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	3				楽しみにしている。先生の名前がわかっていない様子。	名札を必ずつけ、名前を憶えてもらえるようにしていきます。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	3					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。